

馬洗川人工ワンド自然再生プロジェクト

～ 植生分布（外来種）調査報告書 ～

平成21年10月



特定非営利活動法人

日本ビオトープ協会

植生分布（外来種）調査結果

1. 調査の概要

1-1 目的

本調査は、ワンド周辺に生育する外来種（植物）の種類及びその分布を把握し、その結果と過去のデータを比較することで今後の植生発達の推移を予測し、維持管理方法などを検討することを目的とした。

1-2 実施場所

馬洗川人工ワンド 三次市十日市親水公園内

2. 調査内容

2-1 実施日

平成 20 年 10 月 17 日（土）

2-2 調査方法

植栽を実施している範囲を含めたワンド周辺で、生育している外来種（植物）をリストアップし、外来生物法にあげられている特定外来生物と要注意外来生物で群落を形成している種類を対象とした（表-1）。

表-1 人工ワンドで確認された外来種及び調査対象種

特定外来生物	要注意外来生物	その他
○ アレチウリ	・ エゾノギシギシ	・ アレチハナガサ
○ オオフサモ	・ メマツヨイグサ	・ セイバンモロコシ
○ オオキンケイギク	・ アメリカセンダングサ	
	・ オオアレチノギク	
	○ ブタナ	
	○ セイタカアワダチソウ	
	・ ヒメジョオン	
	○ オオオナモミ（ブロックCのみ調査）	
	○ オオカナダモ	
	○ シナダレスズメガヤ	
	○ オニウシノケグサ	

※ この表の中の「○」印の植物を調査対象とした。

※ 現地調査は、ワンドでの生育量が著しい種類を対象に行ったため、ワンド及び周辺部に生育する外来種を網羅的にリストアップしたものではない。

3. 調査結果

調査結果を表-2 と添付資料① 図-1（馬洗川人工ワンド 植生分布図（外来種））に示す。

表-2 各ブロックの調査結果

	調査結果
Aブロック 担当：藤井 岡本 野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ シナダレスズメガヤが法肩から柳の下で群生していた。 ・ 確認された種は、調査対象のうちの5種類で、シナダレスズメガヤ（30%）、セイタカアワダチソウ（10%）であった。 ・ アレチウリが2カ所で確認された。 ・ 水制工により流れがない場所にオオカナダモ及びオオフサモが群生していた。
Bブロック 担当：能野 白石 市原 中川	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査対象とした種のうち、ブタナを除いた種が確認された。 ・ 出現率の多い3種は、シナダレスズメガヤ（20%）、セイタカアワダチソウ（15%）、オニウシノケグサ（5%）であった。 ・ オオキンケイギクが確認された。
Cブロック 担当：岩佐 田口 宮崎 柳	<ul style="list-style-type: none"> ・ セイタカアワダチソウがブロックの8割を占めていた。 ・ シナダレスズメガヤがところどころで確認された。 ・ オオカナダモが水際（約1m付近）で帯状に群生し、ところどころでオオフサモが確認された。 ・ オオオナモミが水際付近に帯状で群生していた。 ・ エリアBとの境付近にオニウシノケグサが確認された。

4. 考察

- ・ シナダレスズメガヤがAとBブロックで優占（全体の約20%~30%）していた。多く確認された場所の特徴は、ワンド形成時に裸地であった場所で、日陰がなく、日照時間が長い場所であった。
- ・ オオキンケイギクがBブロックの一カ所で確認された。平成20年6月に同ブロックで開花していたオオキンケイギクの抜き取りを行ったことから、本調査では確認されなかったと考える。
- ・ セイタカアワダチソウがBとCブロックの石張工設置範囲に優占し、Cブロックでは石張工の全体に群生している。ワンド形成時には石張工が露出されていたが、増水により砂等が堆積するとともに種子が活着したと考えられる。また、堆積している砂の厚みが薄いことがセイタカアワダチソウの優占に関係していると考えられる。
- ・ オオオナモミ（Cブロックのみ調査）は、平成20年6月に植栽した範囲に優占し、特に水際に多い。植栽時に掘り返したために埋土種子が生育したこと。また、水際に多いことは、オオオナモミには湿潤した土壌を好む性質があると考えられる。
- ・ 全ブロックで確認されたオオカナダモは、水際約1m付近の水の流れが緩やかな場所で多く、特に水制工により流れが無くなっている場所にはオオフサモが群生していることがわかった。

5. まとめ

特定外来生物については、オオキンケイギクがワンドの上流陸域、オオフサモとアレチウリがワンド内に確認された。要注意外来生物は、セイタカアワダチソウがワンド石張工設置範囲に優占し、シナダレスズメガヤが柳枝工下部（ワンド右岸側）に優占していた。

植物などは、洪水時の流水によって分布を拡大させることも多く、ワンドの上流域で確認された外来種の侵入を抑えるには、できる限り早期に抜き取りなど除去をおこなうことが必要である。

このたびの調査区域内では、以前より植栽を実施している区域では外来種の侵入は少なく、その他の区域では分布を拡大している傾向があった。これは、在来種が生育繁茂することにより、外来種の群落形成が未然に抑えられていると考えられる。

よって、今後もできる限り植栽をおこない、外来種の侵入を抑えつつ在来種の優占範囲の拡大を図ることとする。

以上

■調査協力者

講師（指導）： 関岡 裕明（環境省希少野生動植物種保存推薦員）
協力者： NPO日本ビオトープ協会会員，NPO自然環境復元協会
広島工業大学 上嶋研究室

■報告書とりまとめ

中川 暢人（総合技研㈱）
野村 公平（総合技研㈱）
竹信 正敏（総合技研㈱）

■添付資料

- ① 図-1（馬洗川人工ワンド 植生分布図（外来種））
- ② 調査対象植物（外来種）の特徴及び対策